デジタル版
2025年
06月12日号
Vol. 162

成岡マネジメントオフィス事務所通信

NMO OfficeLetter

琵琶湖疎水が国宝に指定される！

琵琶湖から京都の岡崎まで流れている「琵琶湖疎水」。京都人には馴染の風景だが、この琵琶湖疎水のいくつかの遺跡が国宝に指定されることになった。桜のシーズンには多くの人で賑わうインクラインや南禅寺の水路閣、トンネルである隧道など5か所が指定される予定だ。

＜解説＞琵琶湖疎水は、1885年（明治18年）に着工し、長い時間かかって完成した当時の土木技術の結晶ともいえる遺構だ。明治天皇の東京行きで衰退した京都産業を再建しようと、3代目の京都府知事が発案し、当時20歳台だった京都大学卒の若い土木技術者田辺朔郎（さくろう）に託した。この工事の完成で蹴上に発電所が完成し、京都市内に電気が通り、路面電車が走り、産業振興の基礎ができた。明治中期における日本の技術を結集して完成した「都市基盤技術の金字塔」と高く評価された。この疎水工事の

最大のネックは、取水口である琵琶湖坂本と到着地点である京都左京区岡崎との高低差がほとんどないこと。わずかな高低差で琵琶湖の水を流すという難工事を、当時機械もあまり満足にないなかで手掘りで進めた。また、トンネルを掘るため照明はローソクしか使えず、作業員は煤で真っ黒になりながら掘り進めたという記録が残っている。現在、岡崎の動物園の東側にある琵琶湖疎水記念館にその詳細な記録が展示されている。今なお現役で稼働している生きた世界遺産でもある。140万人が暮らす京都市民の飲む水は100%この

琵琶湖疎水で運ばれている。貴重なインフラであり、観光資源でもあり、京都市民にとっては何物にも代えがたい。しかし、この琵琶湖疎水が約100年以上前に人手で堀り進められたという歴史を知る人は、次第に少なくなっている。今後は世界遺産の登録を目指して活動する。ぜひ、一度琵琶湖疎水記念館に足を運んで、この世紀の偉業を肌で感じることは大事だ。京都市はこの琵琶湖の水の使用料として年間数億円を滋賀県に提供しているが、これは感謝の気持ちの表れだ。水道以外にも多くの恵みをもたらしてくれている琵琶湖疎水が、明治時代に手掘りで完成したことは感慨だ。

BUSINESS MANAGEMENT&COORDINATION
株式会社成岡マネジメントオフィス
〒616-8104　京都市右京区太秦下刑部町170
プレサンスロジェ太秦天神川駅前613
TEL:075-366-6611　FAX:075-366-6100　info@nmo.ne.jp

Copyright (C) Naruoka Management Office. All rights reserved.